

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月18日

## 【評価実施概要】

事業所番号	871100202		
法人名	有限会社 二葉		
事業所名	グループホーム めぐる		
所在地	常総市花鳥町29-4 (電話) 0297-27-5775		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年10月3日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】 (平成19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	6 人
職員数	6 人	常勤2 人, 非常勤4 人, 常勤換算5.4 人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	～ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	10,000～13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 ( 9月1日現在 )

利用者人数	6 名	男性 4 名	女性 2 名
要介護1	1	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	
要介護5		要支援2	
年齢	平均 75 歳	最低 60 歳	最高 83 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	水海道さくら病院 西部病院
---------	---------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営者や職員は“五感に伝わる介護”を目指し、利用者が穏やかに、ふれあいのある生活が送れるよう支援している。  
ホームには利用者と一緒に作ったウッドデッキがあり、四季折々にいろいろな楽しみがある。  
年2回泊まりがけの旅行を実施しており、生活意欲や健康増進に取り組む一翼を担っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4) 外部評価の結果をもとに、運営理念を玄関の見やすい場所に掲示する、介護計画の定期的、また随時の見直しを行う、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録するなどの課題を改善している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4) 管理者や職員は、外部評価の意義を十分理解するとともに、自己評価を職員全員で取り組んでいる。 また、自己評価をサービスの向上及び改善に活用している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回、市職員・地域の方々・利用者の家族を委員とする運営推進会議を開催している。 運営推進会議では、ホームの取り組み状況や内容を報告し、委員と意見交換を行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8) 意見や苦情を受け付ける窓口や担当者を設置するとともに、常総市介護保険課などの外部機関を明示している。 職員は家族から、何でも言ってもらえるよう関係づくりをしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3) 運営者が地域の独居老人世帯を訪問している。 また、祭りの参加や利用者のごみ出しをした際に近隣の人達と会話するなど、地域の人達と交流できるよう取り組んでいる。

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の個性を尊重した快適空間」の理念を掲げ、利用者がその人らしく暮らし続けることを支援できるよう運営している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送り時に理念について理解を図るよう話し合いを行っている。 また、職員は理念を理解するとともに、実現できるよう支援している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が地域の独居老人世帯を訪問している。 また、祭りの参加や利用者がごみ出しをした際に近隣の人達と会話するなど、地域の人達と交流できるよう取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、外部評価の意義を十分理解するとともに、自己評価を職員全員で取り組んでいる。 また、自己評価をサービスの向上及び改善に活用している。 外部評価の結果をもとに、運営理念を玄関の見やすい場所に掲示する、介護計画の定期的、また随時の見直しを行う、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録するなどの課題を改善している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、市職員・地域の方々・利用者の家族を委員とする運営推進会議を開催している。 運営推進会議では、ホームの取り組み状況や内容を報告し、委員と意見交換を行っている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに、市の担当者と連携している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1度、利用者の家族がホームを訪問することになっており、その際に現況等を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情を受け付ける窓口や担当者を設置するとともに、常総市介護保険課などの外部機関を明示している。 職員は家族から、何でも言ってもらえるよう関係づくりをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職する職員は事前に申出を受け、職員と引継ぎを行うなど、利用者に混乱が生じないよう配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員が外部研修を受講できるよう配慮している。 また、研修受講後に、研修報告を行っている。 職員はスーパーバイザーである上司の意見やアドバイスを受けるなど、内部での勉強会を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会に加入しており、研修会等を通じて情報交換を行い、他の事業所のサービスの取り組みを取り入れるなど、サービスの向上に取り組んでいる。	○	事業所懇談会やグループホーム協会を通じて、近隣のグループホームと交流する機会をもち、サービスの向上に取り組むことを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にホームの雰囲気等に馴染んでもらえるよう体験入居を受け入れている。 本人や家族が納得したうえで、安心して利用ができるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者支援にあたり、信頼関係が構築できるよう心がけるとともに、家族のように親しみをもって接している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者とのかかわりの中で、声かけや利用者の言葉・表情などから、思いや意向を把握している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聴くとともに、介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に変化が見られたときは、その都度、本人・家族・医師と相談し、介護計画を見直ししている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者の交友関係や行きたい場所の要望等を聞いて支援するなど、柔軟な支援を行っている。 また、運営者が地域の独居老人世帯を訪問している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と協力して通院介助を行ったり、歯科医の訪問診療を受けられるなど、利用者の症状に応じて適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について話し合っているが、医師や利用者の家族等と話し合うまでには至っていない。	○	利用者の重度化や終末期におけるホームの方針を明確にし、同意書等の様式を作成するとともに、利用者や家族、職員等に周知を図る取り組みが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りとプライバシーを尊重することに配慮しながら、さりげない言葉かけや支援を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、利用者一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。 また、年2回泊まりがけの旅行を実施しており、利用者が健康増進に取り組む一翼を担っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者と一緒に食事の盛り付けや片付け等を行っている。 また、同じテーブルを囲んで、会話などをしながら楽しく食事を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は決められているが、毎日入浴できるように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜作り・カラオケ・散歩など利用者一人ひとりにあった楽しみごとができるよう支援している。 また、窓ふき・掃き掃除・洗濯干しなど、役割を見つけ、場面づくりを支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的な散歩や自動販売機によるジュースの購入など、楽しみながら外出できるよう支援している。 また、外食を楽しみにしている利用者の要望に応えるため、外食する機会を設けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。 職員は利用者が外出する雰囲気を感じたときは、止めることなく、安全に配慮して見守りによる支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成するとともに、年1回避難訓練を実施している。	○	今後は消防署や地域住民に協力を得ながら、合同で避難訓練等を実施することが望まれる。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの栄養摂取量や水分量を把握するとともに、記録に残している。 栄養士の指導を受け、栄養バランスに配慮した献立を作成している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームには利用者と一緒に設置したウッドデッキがあり、バーベキューや日向ぼっこに活用している。 また、ホーム内は利用者が自宅のような雰囲気生活できるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は板の間と畳の部屋とに分かれており、部屋に家族の写真を飾るなど、本人が居心地よく過ごせるよう配慮している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。